



もせうし



教育目標：○心身ともに健康な子 ○よく学び、深く考える子 ○明るく、心豊かな子

妹背牛小学校
学校だより No.2



平成 27 年 4 月 28 日 発行

夏日差し校長室へカランコエ

校長 柳谷直明

気が付くと、桜咲く季節になりました。今年は時間が経つのがものすごく早いです。それだけ充実している日々を過ごさせていただいている証拠です。新入生を迎え、学級が増え、職員が増え、賑やかな職員室になりました。明るい職員室へ遊びにいらしてください。

6月は運動会があります。花いっぱいの妹背牛小でお待ちしています。今年度もごみゼロ運動、敷地内禁煙に御協力ください。ごみ一つ落ちていない学校を目指しています。

さて、21日には、全国学力・学習状況調査が実施されました。6年生はとてものがんばりました。職員で解答を作成し、その日のうちに自校採点を行いました。国語Bは私が解答を作成し、採点しました。記述式問題には、許容範囲があります。どこまで許容されるのかがはっきりしませんので、正確な点数は出せません。しかし、なかなかのよいできでした。

ここ数年の妹背牛小の先生方の努力、保護者・地域・関係諸機関の皆様の御協力のお蔭様です。昨年度末に実施した学力テストでも、全校の平均で全国を超えていました。子供たちのがんばりがまぶしいです。確かに、テストだけで学力は測定できません。しかし、せめてテストで測定できる学力は公立学校の使命として、大いに伸ばしたいものです。

2月には、昨年度の学校関係者評価が実施されました。その結果を3月にいただきました。有難い評価の数々でした。改善策は今年度の学校経営方針に書きました。PTA総会で一部お知らせした通りです。改善こそ業務の醍醐味です。以下、『平成26年度妹背牛町立妹背牛小学校学校関係者評価書』の一部を引用して御紹介します。

学校運営

○保護者アンケートの各項目において昨年度よりも概ね高い評価を受けており、妹背牛小学校の教育が保護者に肯定的に受け止められていることがうかがわれます。

学習指導

○学校や家での生活の様子についての保護者アンケートでは、家庭学習について本年度はどの学年も家庭学習に取り組む数値が増加しています。学校の指導に成果が表れてきたものと評価致します。

生徒指導

○学校や家での生活の様子についての保護者アンケートや児童アンケートからは、テレビ等視聴・ゲーム等に費やす時間が随分改善されています。基本的な生活習慣の指導に関して児童へも指導、家庭への働きかけなど学校の取り組みに成果が表れてきたものと評価致します。

地域連携

○27年度創設の郷土妹背牛科大いに期待されるところです。教職員が郷土妹背牛科を学ぶ・学校長が郷土妹背牛科の指導・実践者になるかが鍵になりそうです。

その他

○進路指導は昨年度に引き続き今年度も自己評価では厳しい評価がなされています。保護者アンケートでもC・D・Eの合計が20%を超えるのは唯一進路指導です。改善に向けて具体的な方策が示されていますので次年度が楽しみです。

総合評価

○昨年度学校評価の1学校運営の改善の具体的な方策で「学校評価のPDCAサイクルの改善を図る。中間評価を8月下旬に実施する。伴って、児童の生活実態調査の実施時期も見直し、学校評価との関連を図る」と述べられています。改善の具体的な方策にしたがって実践し成果が見られます。PDCAサイクルに則った学校評価として評価します。

○自己評価に個人毎の集計、保護者アンケートが学年毎に集計されて3年目になり、加えて本年度は自由記述欄に学校長の記述が随所に見え学校評価に透明性信頼性を高めています。

○経営の重点の一つでもある「確かな学力の向上」について、平成26年度全国学力・学習状況調査結果、算数A・Bともに全道・全国平均に達していると公表されています。学校の取り組みに敬意を表します。今後とも粘り強い取り組みをお願いします。

改善が期待される点

○昨年度改善の具体的な方策に挙げながら本年度の評価項目に挙げられていないので実践の跡が見えないものがあります。改善の具体的な方策に挙げた事項については自己評価の評価項目に挙げて実践反省することでより学校改善の実があがるものと考えます。

○学校評価の取り組みを通じて、学校として組織的に、今、重点的に取り組むべきことは何かが明確に成ってきていると考えます。今後の取り組みが期待されます。

○保護者アンケートの自由記述には多様な見方考え方で記載されており、それらには何らかの対応をしなければならないところですが、その多様な見方を含めて全体として改善策を考えなければならないのは難しいものがあります。ここで鍵になるのが保護者・地域の人との関わり方だと思います。全体としての改善策を出せなくても理解してもらえるような距離・関わり方が大切だと考えます。

4月に生活実態調査を実施しました。ここから読める子供たちの実態から教育を進めます。まずは我々、教師自らが進んで学びます。早速、6月22日に外部講師を招き、公開研究会で学び合います。保護者の皆様も授業名人と称されている野口芳宏先生の授業を参観ください。私の国語の師です。千葉県教育委員、道教委学力向上コーディネーターをされています。

詳細は来月の学校通信で御紹介します。御都合が付きましたら是非、いらしてください。

ブログ、更新しています。御覧ください。「妹背牛小学校ブログ」で検索できます。

妹背牛小学校ブログ

<http://blog.goo.ne.jp/mosesho26>



望ましい生活リズムの確立を

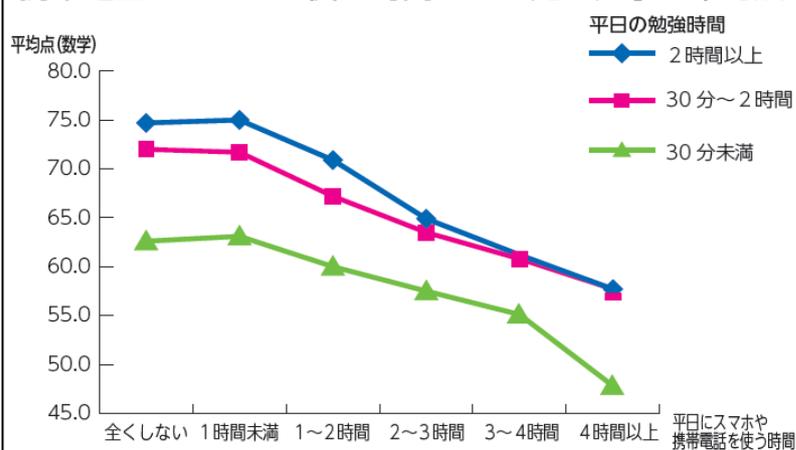
北海道教育委員会では、子供たちがはつらつとした毎日を送ることができるよう、「朝食をとらずに登校する子をゼロに」を目標に掲げた「早寝早起き朝ごはん」運動を通して生活リズムの向上に取り組んでいます。本校でも機会あるごとに保護者の皆様にお伝えしているところです。ここ数年における国の調査により、本道の子供たちの学力・体力は、いずれも全国平均を下回る状況が続いています。また、家庭での生活習慣に課題が見られ、日々の学習や心身の発達など様々な面で影響を及ぼしていることが指摘されています。

望ましい生活習慣定着のためには、携帯電話やスマートフォンを使用する時間や、テレビ・ゲームの時間が長いといった課題を克服できるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要があります。

「脳トレ」で有名な東北大学の川島隆太先生によると、大人がつくってしまった夜更かし型の現代社会では、子供たちは慢性的な寝不足の状態となっています。睡眠リズムの崩れは成長ホルモンの分泌を妨げます。「レム睡眠」と呼ばれる睡眠が減ることで、学んだことが記憶として残りづらくなります。そこで、「子供を早く寝かせることには意味がある」という事実を大人が理解し、就寝時間を決めてしっかりと守らせることが大切となります。

寝不足や寝過ぎの要因の一つとして、電子メディアへの長時間の接触が挙げられます。テレビやゲーム、パソコン等に触れている時間が長くと、脳の「前頭葉」と呼ばれる部分の働きが悪くなります。長時間のテレビ視聴は子供の注意能力や言語能力、記憶力を低下させます。そのことは、諸調査の結果からも明らかです。

携帯電話やスマホを使う時間ごとに見た数学の平均点



<平成 26 年 12 月 20 日 (土) 川島先生の御講演資料より>

以上のことから、「子供たちを必要以上にメディアに触れさせないこと」が重要となります。ただ、押しつけにならないように、調査結果を子供に見せるなど、子供自身が電子メディアを使用することのリスクに気づき、「危険だから使わない」と判断できる機会をつくっていくことが大切です(※)。

子供たちの生活リズムを整えるためには、現状について、学校・家庭・地域が共有することが大切です。「目指す子供の姿」を確認しつつ、歩調を合わせた行動を取る必要があります。子供たちの健全な育成を図るため、ともに取り組みましょう。



※関連した取組に、「どさんこアウトメディアプロジェクト」があります(下記 URL)

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/dosankooutmedia/top.htm>

